

# 第3回飼料・畜産研修会

## つながりが新しい価値を生む

### 畜産業のヒント

経済的な衰退や過疎化に直面する日本  
畜産業を軸として、地域が元気になる秘訣とは。

新たなステージを迎えた畜産の未来は。

海外事例も参考に、日本の持続的発展を見据えた畜産業のステップを  
一緒に考えます。

日時: 2023年11月8日(水)14~16時 ※オンライン併開

場所: AP浜松町(東京都港区芝公園 2-4-1 芝パークビル B館 B1F Nルーム)

対象: 畜産農家、飼料メーカー、飼料・畜産関係団体等

主催: 協同組合日本飼料工業会・一般社団法人全日本畜産経営者協会

申込: ① <https://forms.gle/JbZHhek58Yrf5TXX6>







② QRコード

③ メール [kikaku@jafma.or.jp](mailto:kikaku@jafma.or.jp)

しめきり  
11/1(水)まで



氏名・所属組織名・役職(部署)・電話番号・WEBか会場をご記入ください

   パネルディスカッション   

テーマⅠ. 畜産経営の現状課題と各々の展開状況

テーマⅡ. 日本の経済状況と市場からみる畜産

テーマⅢ. 新たな畜産の未来ステージ



## 木村 純子 (Kimura Junko)

法政大学経営学部教授

神戸大学大学院博士後期課程修了、博士(商学)。研究分野は地理的表示(GI)保護制度、テリトリーオ、地域活性化。農林水産省の地理的表示登録における学識経験者、財務省の国税審議会委員他。近著:木村純子・陣内秀信編著(2022)『イタリアのテリトリーオ戦略:甦る都市と農村の交流』白桃書房、木村純子・中村丁次編著(2022)『持続可能な酪農:SDGs への貢献』中央法規。



## 鈴木 敏文 (Suzuki Toshifumi)

鈴木牧場 代表

北海道十勝地方、広尾町で経産牛60頭、放牧酪農を経営。

2008年に家畜伝染病が発生し、多くの牛が命を落としたことをきっかけに、「病気にならないための飼育」を徹底。牛を第一にした循環型酪農のもと、持続可能な農業に取り組む。2014年に全国青年農業者会議農林水産大臣賞を受賞、2020年にサステナアワード 2020 実践賞を受賞。R3年 日本唯一「生乳・牛肉・鶏卵のJAS オーガニック認証」同時取得

R5年 日本第一号「日本グラスフェッド規格」取得



## 小原 利一郎 (Ohara Riichiro)

大江ノ郷自然牧場グループ 有限会社ひよこカンパニー 代表取締役

専門学校卒業後、県外の養鶏場で働くも、近代型養鶏に疑問を感じ、サラリーマンへ。その後、平飼い養鶏の夢を叶えるため、地元鳥取へと戻り、「大江ノ郷自然牧場」を創業。一個 120 円の「天美卵」として全国へと販売する傍ら、自然循環型農業へ取り組み、地域に根差した六次産業を推進する。パンケーキで行列ができる卵の専門店「ココガーデン」、農と食のナチュラルリゾートをコンセプトとする複合施設「大江ノ郷ヴィレッジ」、閉校を活用した里山リゾートホテル「OOE VALLEY STAY」を展開。山奥にありながら、2019 年度には 36 万 4 千人以上のお客様にご来店いただく。鳥取の素晴らしさ・農と食の大切さを全国へ伝える使命のもと、日本一笑顔の集まる牧場を目指し、約 200 名のスタッフと共に、日々邁進する。



## 米田 大吉 (Yoneda Daikichi)

NPO 法人 プラットフォームあおもり 理事長

慶応義塾大学卒。(株)西友で、人事情報管理・評価制度設計・能力開発プログラム開発者として従事。Uターン後、青森県企業の新商品開発・販路開拓・人材育成・雇用支援事業等に取り組む。2011年にNPO法人プラットフォームあおもりを設立し、現職。他、青森県生涯学習審議会委員、青森県人材還流政策連絡会メンバー、国立弘前大学教育推進機構講師、(株)リンクアンドブリッジ代表取締役等を兼任。金子ファームの多角化事業コンサルタントとしても活躍。